

令和6年度 授業改善推進プラン教科別計画 【技術科】

学年	作成者	現状分析による課題	具体的な改善策 「いつまでに」・「どのように」・「どの程度」	
			短期的な改善策	中・長期的な改善策
1年	鈴木	①技術や科学技術上の用語やキーワード（専門用語）、工具名や機械の正しい名称がしっかりと記憶されていない。 ②工具や機械を適材適所で使用することが苦手できない。	①ワークシートや、プロジェクター等を用いて視覚当で記憶させるようにする。 ②工具や機械の使用については体で覚えていくしかないが、教師側の模範演示等も時間をとって丁寧な指導をする必要がある。	①基礎的な学力を身につけさせるために、関心・意欲の高揚につながる教材を開発する。 ②作業の理解度が本人にフィードバックされるように、ワークシートに記入させ、適切なアドバイスができるようにする。
2年	鈴木	①授業では前向きに取り組むことができる。一方で、自ら考え工夫することが苦手な生徒も一定数見られる。 ②作業の進度は個人差があり、生徒間での差が大きい。	①授業の振り返りを行う時間を設け、自分の言葉で学んだことや分かったことをまとめさせる。 ②早く終わった生徒には、まだ作業が終えていない生徒へのアドバイス等、リトルティーチャーとして、協力し合う場面をつくる。	①基礎的な学力を身につけさせるために、関心・意欲の高揚につながる教材を開発する。 ②作業に遅れがある生徒には、道具の使い方を実演・助言し、鮮度をそろえていく。
3年	鈴木	①問題解決能力の育成、およびコミュニケーション能力の育成を図るために、授業形態や天気を工夫していく必要がある。 ②作業の進度は個人差があり、生徒間での差が大きい。	①生徒間での意見交換や教えあいの時間をつくり、自分の考えを他者に伝える機会を増やす。 ②早く終わった生徒には、まだ作業が終えていない生徒へのアドバイス等、リトルティーチャーとして、協力し合う場面をつくる。	①生徒主体の「自ら考える授業」を展開していく。 ②作業に遅れがある生徒には、道具の使い方を実演・助言し、進度をそろえていく。